

幹線道路はまだ積雪していませんが、車のフロントガラスの雪落としから、私の朝は始まります。

「獲っても海へ 漁師の気持ち分かるか」 9割捨てる試験漁 福島北部沖で再開
「福島県北部の漁師たちが9月25日、待ちかねた船出の日を迎えた。東京電力福島第一原発の汚染水漏れで延期され、約3カ月ぶりに再開された試験操業。だが、本格操業の時期は不透明で、漁師は将来への不安を抱きつつかじを握った。

がれきも網に

相馬双葉漁協に所属する底引き網漁船「賀宝丸」（19トン、乗組員6人）に記者が同乗した。「漁師は魚取ってなんぼじゃから。がれき取ってるのは漁師じゃない」。三春智弘船長（54）は数日前まで連日、沖合のがれき回収に船を出していた。

午前5時前、沖合50キロの試験操業海域に着き、網を下ろす。2時間後、合図のブザーとともに網が上がり始めた。対象魚種16種に入るタコ、イカ、ケガニなどのほかに、いまだに放射能濃度が高いナメタガレイやマガレイなどの国の出荷制限魚種も大量に交じる。

弟の幸英機関長（50）や長男の雄太さん（27）らも一緒に分類し、対象魚種以外を海に捨てる。智弘さんは「震災前はナメタは高く売れた。取った魚を海に捨てる漁師の気持ち分かるか？

安倍さん（首相）も五輪招致演説であんなこと言うなら、ここに来て俺たちと暮らしてみたらいいべ」と、「汚染水はブロックされている」などと発言した安倍晋三首相に怒る。

震災後は津波で流されたごみやがれきが増え、この日も網の中に畳や窓枠が交じってきた。2.5トン近い魚介を船上に揚げたが、松川浦漁港に水揚げした（放射能汚染の）対象魚種は約250キロ。9割ほどの魚介を再び海に戻した。

「継がせない」

「漁師はオレで3代目、おやじは家へ帰るとつらさを紛らわすために酒ばっか飲んどった。だから、すし屋とか陸の仕事をしようと思った」。そんな智弘さんも、地元の高校を出たら自然に家業を継いだ。

時がたち、雄大さんも高3の秋に「俺、やっぱ船に乗るよ」と言った。後継ぎのために約1億5千万円かけ、今の船を新調した数年後に原発事故が起きた。

雄大さんには長男翔海（しょうま）君（7）と次男雄海（ゆうま）君（5）がいる。2人には海の付く名前を付けたが、「漁師は絶対にさせない」と雄大さんは話す。自身も

「職を失った時に保険に」と大型特殊免許を取った。

智弘さんは、消費者の不安もよく分かったと言う。「本格操業の見通しは全く立たねえ。福島のを地元のじっちゃん、ばあちゃんは買ってくれるが、放射能が少しでも検出されたら、俺も取った魚を孫に食わせられねえ。漁師がだよ」

「俺のおやじは今の俺と同じ年で死んだ。今の海の有り様を見たらなんていうか。帰路、台風接近で荒れていく海と空の境目を見つめながら、智弘さんは、かじを握る手に力を込めた。」（「朝日新聞」9月26日付け）

「原発は完全に安全」「放射能汚染水は完全にブロックされている」（安倍首相）
漁師の言葉は重く、一国の首相の言葉は余りに軽く感じるのは、私だけでしょうか？

【捨てるために獲る漁業、こんな漁業があつてよいのでしょうか？ 写真は気仙沼漁港に停泊する漁船 福島ではありません】

